

三菱ケミカルエンジニアリング株式会社 様

複数の拠点間、さらに同じ拠点内での
緊密なコミュニケーションにポリコムを活用。
全体会議のコスト軽減と迅速な情報共有に貢献。



Tsukasa Iwanami

岩浪 司 様
三菱ケミカル
エンジニアリング株式会社
総務部長



Tadao Hiraishi

平石 忠央 様
三菱ケミカル
エンジニアリング株式会社
総務部



本社と支社・事業所との連携、全体会議、さらに同じ拠点内での打ち合わせ等にポリコムを駆使する同社。広い会議室にはルームタイプの端末を常設し、限られたスペースの事業所ではプリンストンオリジナルの一体型システムを活用している。

■導入システム一覧

ビデオ会議システム(各拠点端末)

- RealPresence Group 310-720 EagleEye IV-4xカメラモデル

- RealPresence Group 310搭載一体型コンパクトビデオ会議ステーション

- HDX 7000
- HDX 6000

多地点接続サーバー

- RealPresence Collaboration Server(RPCS) 1800 15HD/30SDポート構成

多地点接続サーバー

- Meeting Organizer

製品導入の きっかけ

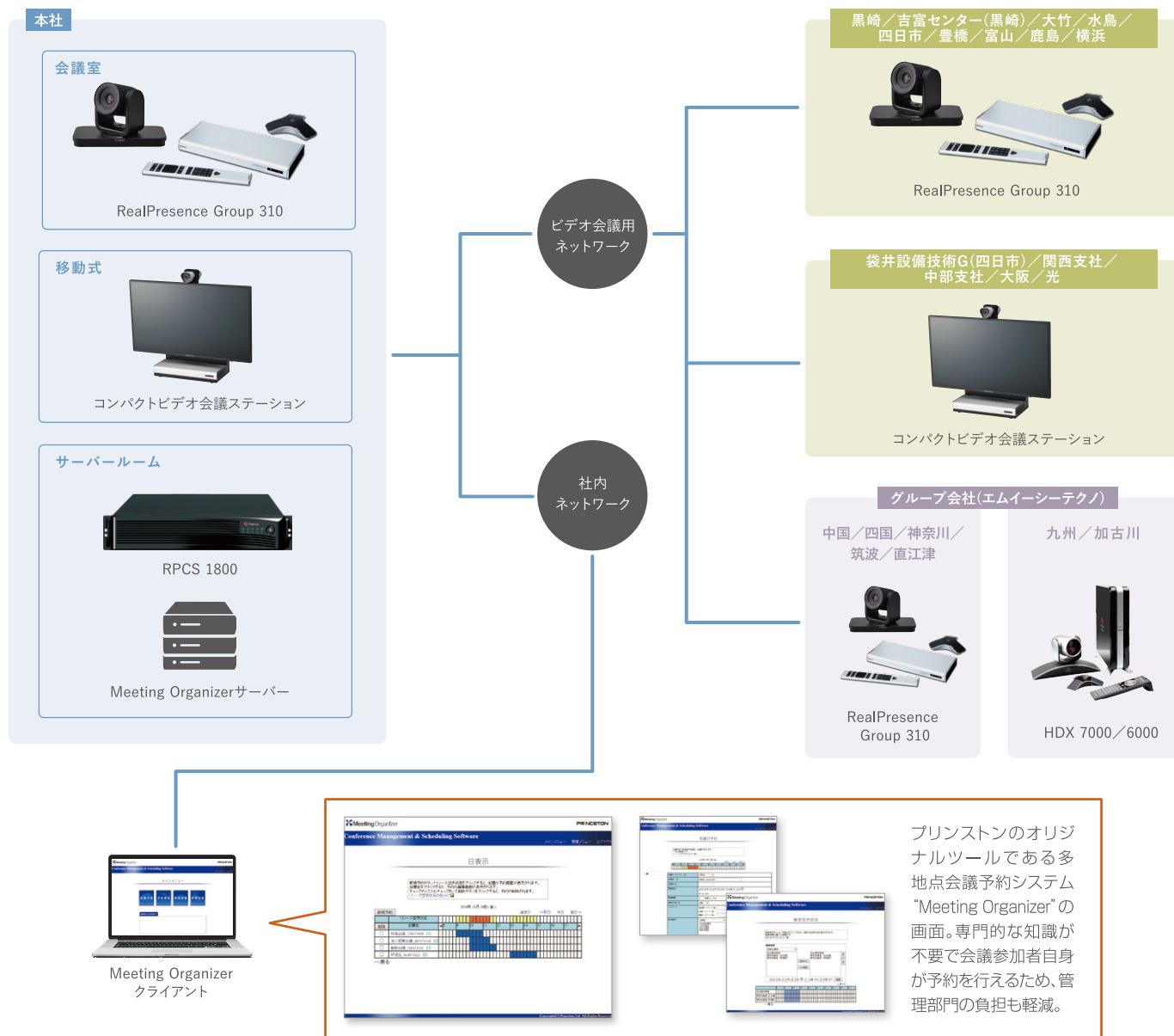
全拠点のメンバーが一堂に集まるのと変わらない 密度の高い会議を合理的に行うべく導入

東京本社を核に、全国に支店・事業所を展開する三菱ケミカルエンジニアリング株式会社様。三菱ケミカルホールディングスグループの設備技術部門として、化学、合繊、食品、医薬品、情報電子、物流システム、さらにメガソーラーほか広範な分野におけるプラントの設計・建築を行っています。取引先は大きく2タイプに分かれ、親会社である三菱ケミカル株式会社様をはじめとするグループ会社と、その他の顧客企業です。支社・事

業所は親会社の拠点に合わせて設置され、石油コンビナート施設の多い西日本エリアが主体。さらに、東日本・北日本エリアについては本社が対応しています。

化学分野のプラント開発においては、化成品を製造する施設づくりだけでなく、固体・液体・ガスなど製品の形態に合わせた物流システムの構築、さらにクリーンルームなど特殊空間の創造など業務の裾野は広く、多様な技術とノウハウ

[システム概要]



が求められます。それだけに、様々な部署間、本社と拠点間での緊密なコミュニケーションや情報共有が必須です。

同社が初めてポリコムのビデオ会議システム(以下ポリコム)を導入したのは2008年。「それまでは親会社のシステムを利用していましたが、間借りの状態では社内のコミュニケーションが円滑に行われなかったこともあり。そこで自前のシステムを導入することになったのです」と語るのは、同社総務部長の岩浪氏。拠点数が多いため、全体会議を行う際の出張コストの低減も課題だったとのこと。「各人がそれぞれの拠点にいながらにして、一堂に集まるとは変わらない密度の濃い会議を行えると考えました(岩浪氏)」。

ポリコムの選定理由としては「使いやすさ」を一番に挙げます。「それまで活用していたシステムは、電源を入れてから立ち上がるまで30分ほどを要し、リモコン操作も難しいといった課題がありました。ポリコムならそれらを解消できると期待したのです」と岩浪氏は話します。

機器選定のポイント

8年間活用して社内満足度が高いことから、リプレイス時も継続してポリコムを選定

2016年、同社ではシステムの保守サポート終了時期に合わせて機器の全面的なリプレイスを行い、同年10月に完了しました。その際もポリコムを継続して選定。端末はすべてHD対応に刷新し、スペースや利用目的に合わせてルームタイプの端末と、プリンストンオリジナルの一体型システム(コンパクトビデオ会議ステーション)をそれぞれ採用。さらに多地点接続サーバーと、やはりプリンストンのオリジナルツールである多地点会議予約システムのMeeting Organizerを導入しました。「3社の製品を比較検討した結果、再びポリコムを選びました。操作に慣れ親しんでいることもありましたが、8年間使用する中で社内から不満の声が挙がらなかったことも大きかったです」と岩浪氏は話します。



複数の拠点間の連携を重視する当社では、コミュニケーションの要である多地点接続サーバーをフル活用するためにMeeting Organizerを導入。全社員が扱うことを見据え「操作のしやすさも確認のうえ採用しました」と平石氏は説明する。

リプレイス後は、22拠点で25台の端末を利用。一部の拠点で建屋の統合などもあり、端末の総数は以前よりも削減しました。ただし、同社総務部の平石忠央氏によると「適正な台数にしたはずですが、すでに『もっと数が必要』という声が社内から寄せられています。そのことから各拠点にとってポリコムは重要なツールであることがわかります」と話します。

活用法と導入効果

市場やグループ内の環境変化に対応し、効率化・合理化を実践するツールとして駆使

当社では、本社と拠点間、そして異なる拠点同士でのコミュニケーションにポリコムを活用しています。「グループ向けの案件ではすべての拠点に関わるケースもあるので全体会議が主な使途。また、社長の年度挨拶を全拠点に中継する際にも活用しています」と岩浪氏は説明します。

また、同じ事業所内のコミュニケーションでもポリコムは重宝していると岩浪氏は語ります。「建屋がいくつかに分かれ、2キロ近く離れているケースもあります。以前はちょっとした打ち合わせのためにも、社員たちは広い敷地内を行き来しなくてはな

らない状況でした。ポリコムを活用することでそうした移動のための手間と時間が不要になり、とても助かっています」。

多地点会議予約システムについては、「会議に参加する社員自身が予約操作を行うため、操作が簡単であることが絶対条件でした。Meeting Organizerならポリコムと相性が良いですし、デモ活用で操作性が優れていることも確認できたので導入するに至りました」と平石氏は説明します。

ポリコムの導入効果としては「当社では図面をはじめ様々な資料をもとに会議を進めることが少なくありません。その際、どの資料について説明しているのかを映像で指し示したほうがわかりやすく、またサンプルを映像で見せるほうが円滑に情報共有できるといったメリットがあります(平石氏)」。

すべての機種をHD対応にしたことにより「画質が一段ときれいになったのは一目瞭然。合わせて使いやすさも向上したと感じています」という岩浪氏の言葉を受けて、「導入したばかりの頃は新しい機種だけあって操作方法などに関する問い合わせもありましたが、すぐに慣れたようでそれも急減しました」と平石氏も説明します。「劇的に変化したということはなくとも、全員が普通に使いこなせ、満足しているということは非常に大切なこと」とポリコムの使い勝手の良さを岩浪氏は高く評価しています。

また、当社では市場の変化に合わせ、必要な拠点で重点的にポリコムを駆使しているとのこと。「たとえば医薬品業界ではジェネリック医薬品の普及に伴い、プラント開発の需要も増えています。そのため近年は、富山の事業所と本社との連携がより重要になっています。ポリコムを活用することで、業務の効率化と会議に要する交通費の軽減を実現できています」と岩浪氏は語ります。

その一方で2017年4月には、親会社である3社が統合し三菱ケミカル株式会社として再スタートしました。「当然ながら、親会社の統合には様々な領域での効率化や合理化といった目的が含まれており、グループ会社としても対応していかなければなりません。それを実践するツールとして今後ますます重要な役割を担っていくことでしょう(岩浪氏)」とポリコムのさらなる活躍に期待を寄せています。

三菱ケミカルエンジニアリング株式会社

広範な産業分野におけるプラントの設計・建築から、設備管理やメンテナンスに至るまでの事業を展開。東京本社のほか、福岡、広島、岡山、香川、大阪、三重、愛知、富山、茨城の各府県、さらにアジアの要所にも拠点を配置し、それぞれの地域に密着したクオリティの高いエンジニアリングサービスを提供しています。

所在地:〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町1-2-2 設立:1957年 ウェブサイト:<http://www.mec-value.com/>

販売代理店 パナソニック株式会社 エコソリューションズ社 〒105-8301 東京都港区東新橋1丁目5番1号

取材時期:2017年5月

三菱ケミカルエンジニアリング株式会社

お問い合わせ

E-mail dcs-info@princeton.co.jp

輸入販売代理店

株式会社プリンストン URL <http://www.princeton.co.jp/>



PolycomおよびPolycomのロゴ、また、polycom, Incの米国およびその他の国における商標です。本紙に掲載している会社名と製品名は米国またはその他の国における商標登録です。本紙に掲載している製品写真は出荷時のものと一部異なる場合があります。本紙の本文内ではTMマークや®マークは明記していません。